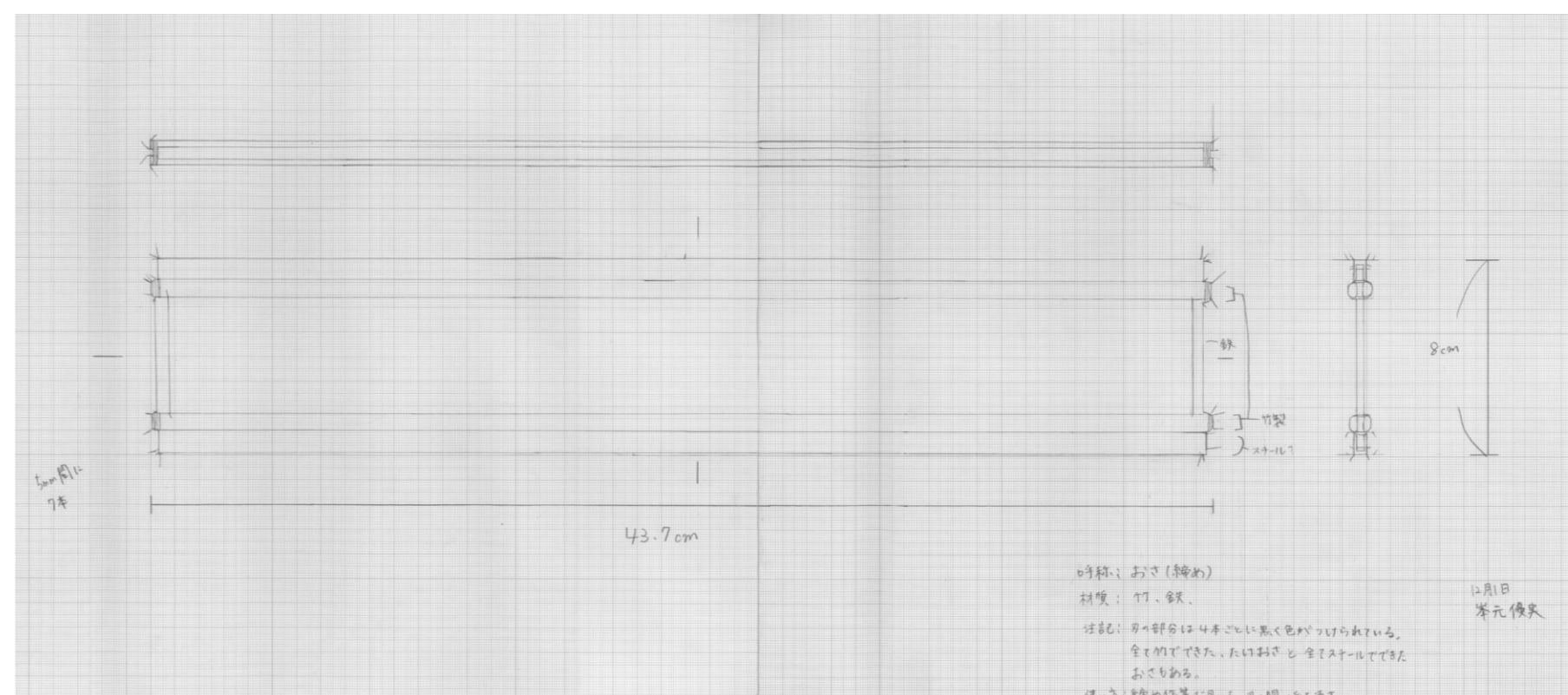
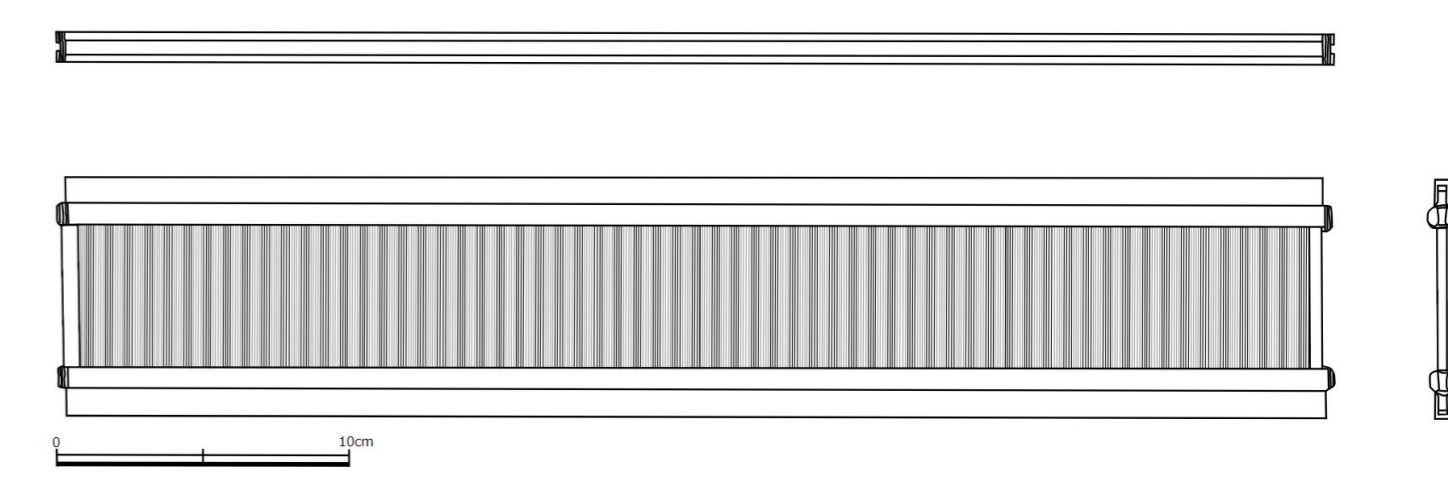




第1図 3Dスキャン



第2図 実測図



第3図 トレース図

1. 課題意識



大島紬を後世に伝えていくためには、大島紬づくりの技術と技術を支える道具の両者を保存する必要があると考える。

大島紬の保存について、「技術」の保存についての取り組みは行われている。(例：本場大島紬技術専門学院)

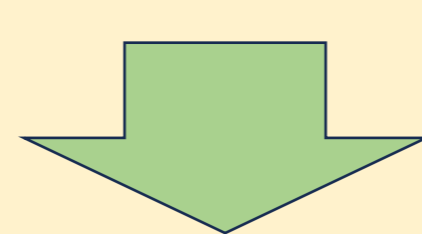
「道具」の保存についての取り組みが行われていないのではないかと。

2. 道具保存の現状

奄美の里 山方さんのお話



大島紬最盛期は多くの人が大島紬づくりを行っており、多くの道具が使われていた。その時に使われていた道具が残っているため、一般的な道具が不足しているという事態は発生していない。しかし生産が終了してしまった道具もあり、今後どうなるかは分からない。そのため現在、道具を収集中である。



大島紬づくりに関係する道具の保存の取り組みが必要である

3. 道具保存の方法

- (1) 道具を3Dスキャンする
ScaniverseのLiDAR機能を用いた
- (2) 道具を実測する
デジタルトレースはInkscapeを用いた

○3Dスキャン

使用した物： Scaniverse (iOSアプリ)、 iPad (LiDAR対応)

所要時間：のべ2日



Scaniverse (App Store より)

○実測

使用した物：方眼紙、三角スケール、 デイバイダー、 キャリパ

所要時間：のべ1日半



4. 作業プロセス

(1) 3Dスキャン

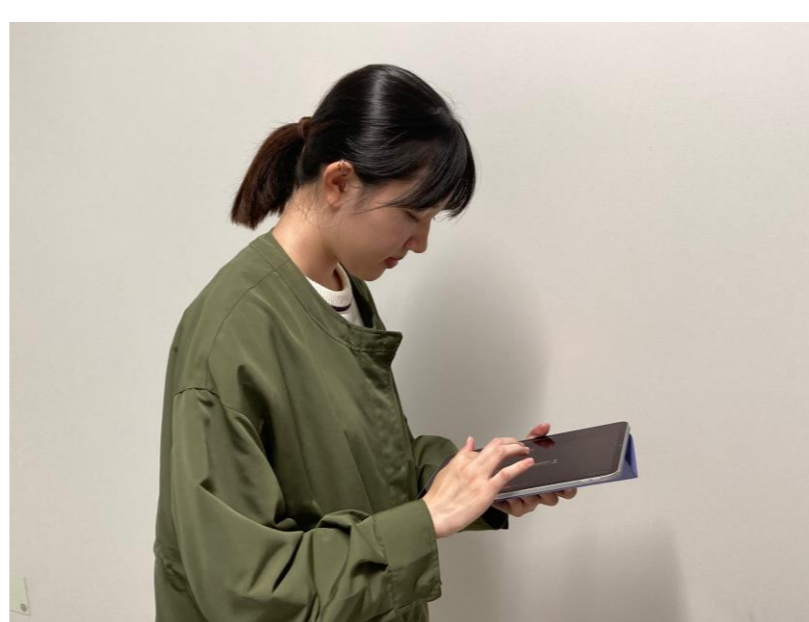
対象物の 周辺を回る



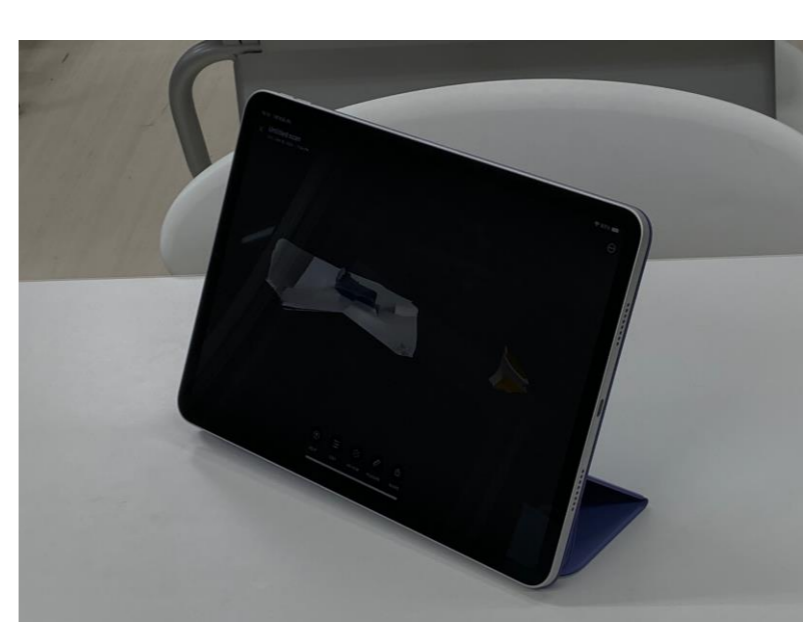
コンピューター 処理



範囲を定める



コンピューター 処理



3Dデータの 完成



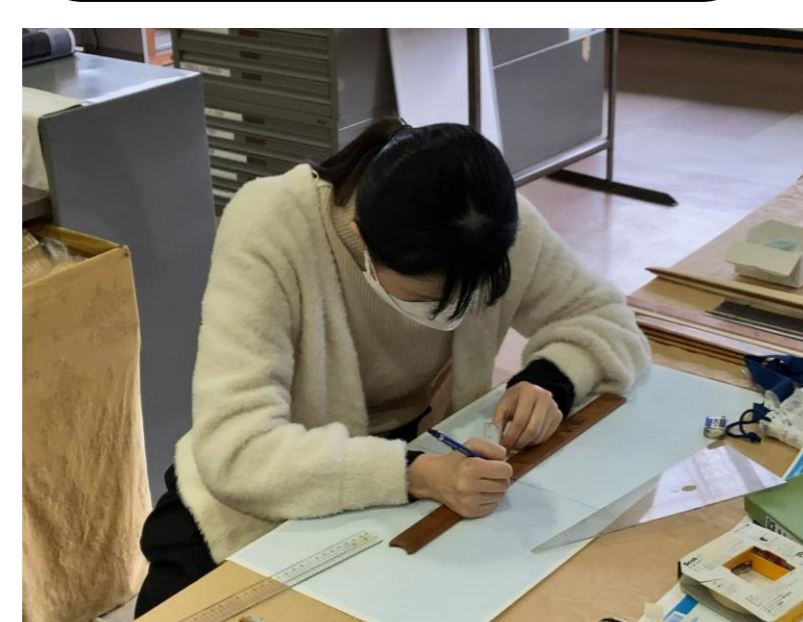
3Dスキャンのデータはこちらから

(2) 実測

道具を 計測する



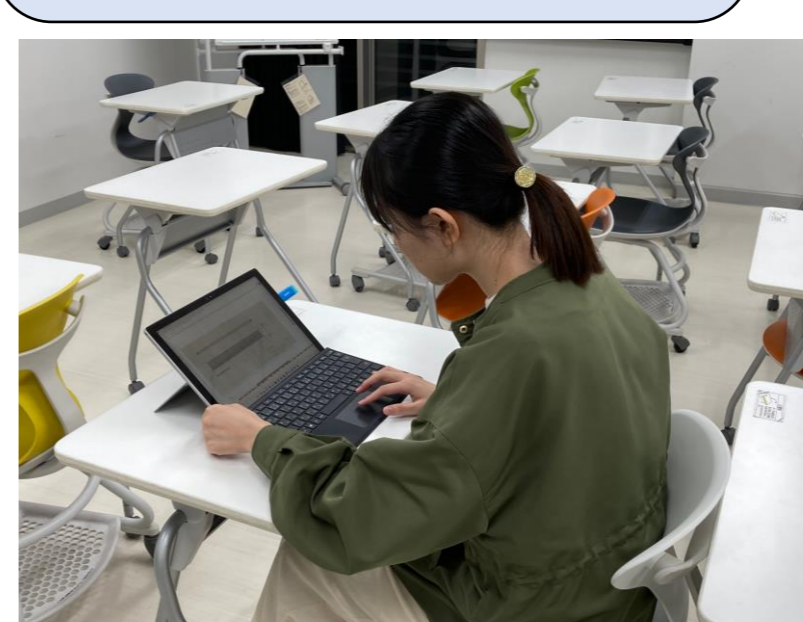
方眼紙に 実測図をかく



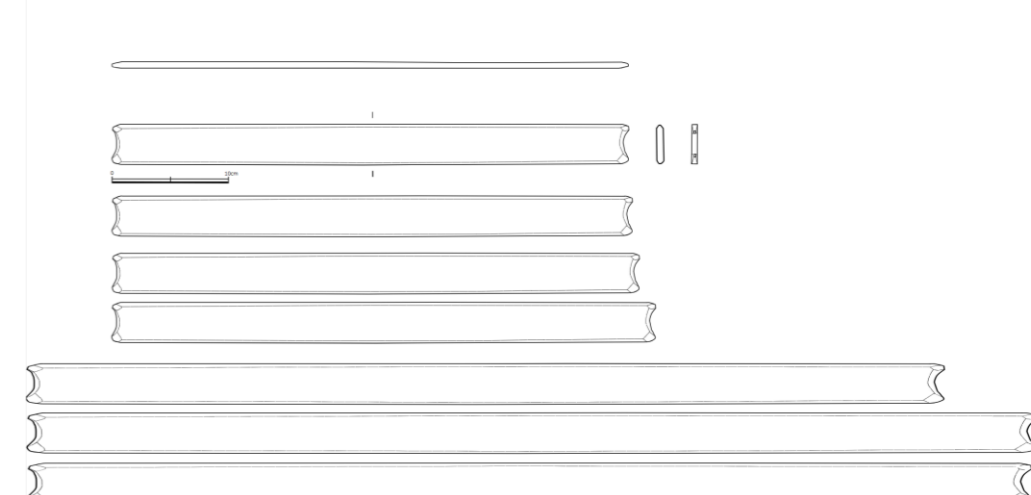
パソコンに 実測図を取り込む



デジタルトレース をする



トレース図 の完成



実測のデータはこちらから



5. 結果をふまえて

(1) 3Dスキャンを行って

メリット：道具を3次元で認識できる。Scaniverse対応端末があれば誰でも行える。

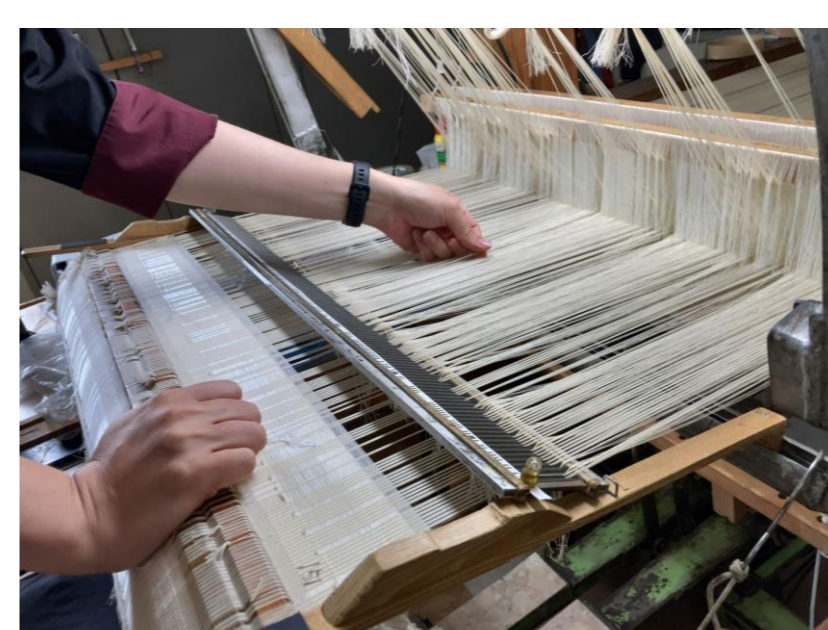
デメリット：細部をはっきりとスキャンできない。反射するような材質のものはスキャンできない。裏側がわからない。

(2) 実測を行って

メリット：細部まで認識できる。構造が把握しやすい。

デメリット：実測の専門知識がなければ行えない。

6. 道具のアーカイブ化によって期待される効果



道具をアーカイブ化することによって、道具の現物がなくなっても大まかなつくりや材質を知ることができる。生産が終了してしまった道具もある状況の中、道具をアーカイブ化し、記録することによって、後世の人々に現在の大島紬づくりで使っている道具を伝えることができる。

大島紬の魅力はその緻密さで語られることが多い。今回得たデータを用いれば、従来の緻密さに加えて、緻密さを支える道具という視点から、大島紬の魅力も伝えることができるのではないだろうか。